

豊かな体験活動推進事業ブロック交流会研究発表

福井県立大野高等学校

大野高等学校の概要

- (1)所在地 : 福井県大野市新庄10号28番地 0779 - 66 - 3411
- (2)学級数と生徒数 : 全日制
1年 : 8クラス(296名)、2年 : 8クラス(295名)、3年 : 8クラス(312名)
合計 903名
- (3)教職員数 : 74人

1 取組のねらいや内容

本校の位置する大野市は、周囲を山に囲まれた盆地であり、豊かな自然に恵まれている。また、本校は今年で創立97年目を迎える歴史と伝統を誇り、地域の学問の府として社会のさまざまな分野で活躍する人材を輩出してきた。しかし、入学してくる生徒は学力の面や興味関心において年々多様化しており、直接体験の不足や学力の向上等が大きな課題となっている。そのため、本校では従来より「生徒の進路実現支援事業」として、1年生に「職業発見講座」、2年生に「学問発見講座(当事業では学問発見講座)」、3年生に「進路先の見学・体験」を行ってきたが、「豊かな体験活動推進事業」の指定を受けてこれらの事業に「学問発見講座」を加えて生徒の進路学習を支援し、進路指導の充実を図ることとした。また、クラス単位のキャンプを実施して自然との触れ合いや自然保護活動といった自然体験活動を行って自然の大切さを自覚し、地域の自然への理解を深めた。スノースポーツデーでは生涯スポーツにつながる基礎的な知識や技能を身につけさせることとした。

2 教育課程上の位置付け

以下の活動は特別活動の時間として実施した。

- ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動
- 自然に関わる体験活動(ホームキャンプ)
- 自然に関わる体験活動(スノースポーツデー)
- 職業・就業に関わる体験活動「学問発見講座」
- 職業・就業に関わる体験活動「学問発見講座」
- 交流に関わる体験活動「オープンスクール」

3 活動の概要(実施にあたり苦労した点や工夫した点)

取組の概要

(1) ボランティアなど社会奉仕に関わる体験活動(1日3時間)

家庭科の授業とロングホームを連続させた時間を設定し、クラス単位で市内の保育園・幼稚園などの施設で奉仕活動や保育体験を行った。

(2) 自然に関わる体験活動（2日×6時間）

夏季休業中に、クラス単位で県内奥越地方の各キャンプ場で1泊2日のホームキャンプを実施し、自然観察や天体観測などの自然体験活動や河川清掃作業などの奉仕活動を行った。

(3) 自然に関わる体験活動（1日6時間）

1月に近隣の六呂師高原スキー場で、1・2年生を対象とした各種スノースポーツの体験活動を行った。

(4) 職業・就業に関わる体験活動「学問発見講座」（1日8時間）

夏季休業中に生徒の進路志望に合わせた大学・短大・各種学校の8つのコースを設定し、それぞれのコースで見学、模擬授業、実験演習などの体験を行った。

(5) 職業・就業に関わる体験活動「学問発見講座」（1日3時間）

学問発見講座として12月に県内の大学関係者を招き講演や模擬授業を行った。

(6) 交流に関わる体験活動「オープンスクール」（2日×3時間）

夏季休業中に地元の中学生を招いて、部活動の紹介・各特別室の紹介などの説明会に参加した。

特に工夫や配慮をした事項

保育体験では家庭科の保育の分野を学習した後、幼児と接する機会を設け、幼児の価値観にふれることを目的として市内の保育園で保育実習を実施した。園児の日常活動の妨げにならないよう園との連携を密にし、また、指導については担任と家庭科教員の複数で当たるようにした。事前指導としては家庭科の授業において行い、事後指導では感想を書かせたりクリスマスカードを作成して実習した保育園にプレゼントするなど、体験だけに終わらないよう工夫している。生徒の中にはサマーボランティアとして保育園での奉仕活動の経験をしている生徒も多く、初めての生徒に対してアドバイスをするなどスムーズに実施することができた。

自然に関わる体験活動では、本校の立地条件が豊かな自然に恵まれている条件を生かし、ホームキャンプやスノースポーツといった体験活動を実施した。自然の豊かさへの認識を深めたり生涯スポーツにつながる基本的な知識や技能を身につけさせたりすることをねらいとした。特にホームキャンプではレクレーションだけに終わらないよう、自然体験を実施したり河川清掃などといった奉仕活動を必ず取りいれるようにした。

職業・就業に関わる体験活動では、本校がこれまでに積み重ねてきた活動を中心に効率的・効果的に再編成することで教育課程編成の一助とし、学問と職業の関連を理解し、将来の進路選択への興味関心を高めることとした。計画実施にあたっては、生徒に対して事前に各計画のねらいを十分説明指導し、事後においてはレポートを提出させるなどして評価を行った。生徒は、1年次には県内の企業家や職業人による職業発見講座を受けており、2年次夏季休暇中の大学訪問による学問発見講座、12月の大学教授等による学問発見講座といった講座を受けることによって学問観を培い、学問への興味関心が高まったと評価している。

交流に関わる体験活動では、中学生・保護者対象に学校説明会を実施し、2年生全員が何らかの形で参加をさせるようにした。

4 活動の評価方法

体験活動の評価には点数化は不適切であると考え、生徒が体験活動をとおしてどのような変容をしたかを把握することに重点をおいた。そこで、幼稚園での体験活動や学問発見講座・において全員に感じたことや考えたことあるいは発見したことなどについてのレポートを提出させた。また、幼稚園の指導者の意見や園児の感想などをもらって活動計画の立案や実際の活動内容についての教師側としての反省点を整理した。

5 学校支援委員会の組織・運営

本校のPTA役員（会長、副会長3名）と大学の広報担当者を支援委員とした。地元の施設を利用する場合には、PTA役員の方に紹介を受けた。また、主に「学問発見講座」では、大学の広報担当者に訪問の日時、内容等について相談をして円滑に実施できるようにした。

6 推進地域としての取組

大野市は、海拔1,000メートル級の山々に囲まれた盆地で森林面積は市全体の8割を占めている。また、九頭龍川、真名川といった河川もあり豊かな自然に恵まれ、稲作をはじめ農業が盛んな地域である。

しかし、近年はこのような自然環境に恵まれながら若い世代の農業離れや生活の都市化、また児童生徒の習い事やスポーツ少年団活動、部活動などによる多忙化により十分な自然体験や農業体験、ボランティア体験などの機会が著しく減少している。

上記のような状況を踏まえ、地域の特徴を生かし、大野市の豊かな自然を活かした自然体験や農業体験を数多く積ませることによって、自分たちの住む大野市の豊かな自然を愛し、環境保持に取り組む態度を育てたい。また、職場体験等を通して働く喜びや粘り強くものごとに取り組む態度を育てたい。このため市内の市街地の3小学校と村部の2小学校計5校と全中学校4校、高校1校を推進校とした。小学校においては自然体験・勤労生産体験活動を中核に、中学校においては自然体験・職場体験活動を中核に、高校では自然体験・職業就業体験活動を中核に様々な体験活動を推進することとした。

7 活動の成果

社会奉仕に関わる体験活動

教室では見られないような生き生きとした生徒の笑顔を見ることができた。中学生の時に保育体験をしている生徒もいたが、幼児と接してみて、成長した自分を発見したようだ。活発な幼児の活動に対して、年長者として慈しむように接していた姿が印象的であった。事後指導で行ったクリスマスカード作りにも熱心に取り組み、園児達に喜んでもらいたいという思いの溢れた作品が多く見られた。異世代間の交流が少なくなった今の生徒たちにとって、園児と触れ合う機会を得られたことは、自分を見つめなおし、将来を考えていくよいきっかけになるのではないかと思われた。

自然に関わる体験活動

ホームキャンプでは平常の学校生活では体験できない、寝食を共にし自然観察や天体観測などの自然体験活動や河川の清掃などの奉仕活動を行うことによって、クラス内の協調性や連帯感を高めることができ、日頃あまり接することがなかった生徒同士や教師と生徒が交わる良い機会となった。

また、スノースポーツデーでは本校の地域性を生かし、スキーやスノーボードなどのスノースポーツの技能を高めると同時に、白銀の大自然の中で1日を過ごすことによって体力の向上や感性を高める良い機会となった。

職業・就業に関わる体験活動

「学問発見講座（大学見学）」実施後に行った調査では、全体の85%の生徒が「非常に良かった」あるいは「良かった」と感想を述べている。「あまり良くなかった」「良くなかった」と答えた生徒は2%にすぎず、当初の目的を十分に果たすことができたと考えている。さらに、生徒の感想文によると「大学のよさがわかった。しっかり勉強して志望大学に行きたい。」、「大学に入りたいという意欲が強く湧いてきたので有意義な一日だった。」など、ほとんどの生徒が感動し、進路に対して前向きな姿勢を示すようになった。12月に実施した「学問発見講座（模擬授業）」では、講義の内容が「よくわかった」、「だいたいわかった」が全体の56%で、興味が持てる内容であったことをはじめとして、講義の内容が具体的でおもしろかったと感想を述べる生徒が多かった。

また、1年次の「職業発見講座」と「学問発見講座」が進路決定に「大変役に立った・ある程度役に立った」が57%で、職業に関する経験談や学問の専門的な講義を聞くことが生徒たちにとって貴重な経験となり、進路を決める上で参考になったり刺激になったと思われる。

交流に関わる体験活動

中学生にとっては、部活動、引率係、各場面での説明係の生徒が顔見知りの先輩であったりするので親しみをもって参加できたようである。また、生徒自身にとっては、自分の学校を説明したりすることで自分自身を見つめなおすきっかけになった。

8 今後の課題

本年度は奉仕活動を十分には実施できなかった。本校周辺は企業や福祉施設などが少なく、1学年300名という生徒数のため全員が施設等に訪問することが困難なためであるが、可能な活動について施設と相談するなど連携をもち実施期間を長期に設定したりして奉仕体験を実施したい。

また、本年実施した各事業については所期の成果をあげることができたと考えているが、生徒の意見や受け入れ先の指導者の助言を参考にしてより充実したものにしていきたい。